



第115号 2014年1月

発行：萩ネットワーク協会

〒758-8555 山口県萩市大字江向510 萩市役所広報課内

TEL 0838・25・3178 FAX 0838・26・5458

萩市ホームページ <http://www.city.hagi.lg.jp/>

写真「キセキノツバキ」(笠山椿群生林)／マキタオモリツグ

主な内容

大河ドラマのヒロイン 吉田松陰の妹・文	P4
ズームアップ 萩ふるさと大使 岡本信人(東京都)	P6
萩高校合唱部顧問 有富美子(萩市)	P7
元気な企業探訪 道の駅「萩往還」篠原充(萩市)	P8
みやうち内科・消化器科クリニック 宮内嘉明(萩市)	P9

萩市東部の“7.28”集中豪雨災害。合併後8年経過した新萩市の最大の試練となりました。災害復興局を新設し、1月からは担当の副市長を設け、県内自治体、姉妹都市等の職員派遣の応援を受けながら、一日も早い復旧復興に全力で取り組んでいます。救援義援金については、全国からの心温まるご支援に心からお礼申し上げます。

このような中、年末に明るいニュース。2015年のNHK大河ドラマは、萩を舞台として吉田松陰先生の妹「文」を主役とした幕末・維新の物語「花燃ゆ」に決まりました。ユネスコの世界遺産登録とともに、今後の展開が大いに期待されます。

迎春

2015年 NHK大河ドラマは萩が舞台！



2月 23日

第1回

萩・幕末維新検定

幕末・歴史ファンの チャレンジを待っています!



■ところ JAあぶらんど萩本所
ホール(萩市江向、旧萩藩校明倫館横)ほか

■受験料 3000円(税込)

公式テキスト発売中

現在、「萩・幕末維新検定問題集」

2018年(平成30)の「明治維新150年」に向けた記念事業の一つとして、幕末・維新时期における萩ゆかりの人物や歴史などを学ぶ第1回「萩・幕末維新検定」を、2月23日に初めて開催します。

■とき 2月23日(日) 午前10時
〜(検定時間 90分)

が発売中。幕末から明治維新期にゆかりのあった萩の人物や出来事などを3択で出題し、それぞれに解説がついています。

検定は問題集の343問の問題や解説の中から択一式と記述式を各50問ずつ出題、正解率8割以上で合格となります。

定価は1500円(税込)で、萩博物館(電話での注文・配送可)、おいでませ山口館(東京都日本橋)ほかで販売しています。

受験者には特典も

普段は入室できない松下村塾での特別講義や至誠館でのギャラリートーク、または萩博物館の収蔵庫などを見学できるバックヤードツアーに参加できます。

また、検定日当日には萩博物館、松陰神社至誠館の入館が無料となります。

申し込みは「萩・幕末維新検定ホームページ」から。申込期限が1月31日までと迫っていますので、お早めにお申し込みください。

申し込み・問い合わせ

〒758-8555 萩市まちじゅう博物館推進課
(0838-25-3290)

皆さんからの 義援金を被災者の方へ お届けしました

7・28豪雨災害復興スローガン

復興は みんなの笑顔が エネルギー



7月28日の須佐・田万川・むつみ地域の豪雨災害で被災された皆さんを支援するため、全国から寄せられた「萩市集中豪雨災害救援義援金」は、12月24日現在で1億4,984万6,471円となりました。

義援金は、「萩市集中豪雨災害救援義援金配分委員会」で配分金額を決定し、これまで9月と12月の2回、被災された方や阿北苑などの大きな被害を受けた社会福祉施設にお届けしました。

義援金を受け取られた方からは、「皆さんの気持ちがありがたく、大切にしたい」などの感謝の声が聞かれました。

これまで温かいご支援をいただいた多くの皆さんに心から感謝申し上げます。

■問い合わせ 萩市企画政策課
(0838-25-3569)

世界に誇る 「究極のお土産」に 萩の 金太郎・平太郎 の加工食品

地 域の特産品を生かした、世界にも通用する食の「究極のお土産」を発掘する品評会を11月29日、観光庁が初めて開催し、ふるさと萩食品協同組合の「オイル・ルーージュ」と「オイル・ポニーフィッシュ」が選ばれ、中国地方では唯一の選出となりました。

この企画は、特産品を製造・販売しているのに十分な販路を持たない地域の業者と百貨店のバイヤーらをつなぐとともに、地域の魅力を全国に発信し旅のきっかけにすることを目的としています。

今後、究極のお土産は、デパートの催事場や、インターネット「楽天市場」で販売されるほか、観光庁のインターネットサイト「日本タビカレッジ」内で紹介されます。

道の駅「萩しーまーと」(0838-24-4937)で電話注文も受け付けています(送料別)。

電話注文

24・4937)で電話注文も受け付けています(送料別)。



オイル・ポニーフィッシュ (100g)550円
萩産のオキヒイラギ(地方名:平太郎)を特製調味オイルで漬け込みました。



オイル・ルーージュ (130g)650円
ジャパン・ルーージュ(萩産ヒメジ金太郎)を使用。オイルサーディン風に調味しています。

ともにそのまま酒のつまみにしたりパスタやピザに混ぜて食べる

★2本セットを2名様にプレゼント

東京都での販売場所

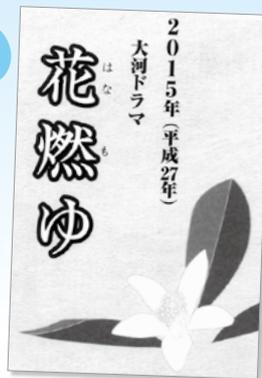
- ・おいでませ山口館 (中央区日本橋)
☎03・3231・1863
 - ・ブッチーネ (中央区築地)
☎080・7078・0407
- ※価格は店舗により異なります。



■井上真央さん（ヒロイン 文 役）
1987年（昭和62）1月、神奈川県生まれ。
2011年の連続テレビ小説「おひさま」、
映画「八日目の蝉」（日本アカデミー賞最
優秀主演女優賞）など多くの話題作に出演。

松陰の妹・文の生涯を描く

「花燃ゆ」
に決定！



明治維新のまつただ中を
生き抜いた女性がいた。

2015年（平成27）のNHK大河ドラマが、吉田松陰の妹・文の生涯を描き、萩が主要な舞台となる「花燃ゆ」に決まりました。主演は井上真央さん（26歳）、12月3日にNHKが制作発表しました。

「花燃ゆ」は大河ドラマの54作目。萩が舞台となるのは、1977年（昭和52）の大村益次郎を主人公にした「花神」以来38年ぶりです。

主人公の文は、松陰の生家である杉家の四女で、松陰門下の久坂玄瑞と結婚します。玄瑞が禁門の変で自決した後は、毛利家の奥女中となります。姉寿子の死後、姉が嫁いでいた初代群馬県令（現在の県知事）の楢取素彦と再婚し、教育や産業の振興に尽した夫を支えました。

ドラマでは、文の生涯を中心に、ともに困難を乗り越えていった杉

家の強い絆と、松陰の志を継いでいった若者たちの青春群像が描かれます。

◆制作への意気込み

制作発表で、「篤姫」「龍馬伝」に携わった土屋勝裕チーフプロデューサーは、「薩摩、土佐を扱い、「八重の桜」の会津の次は、そろそろ長州を舞台にしたいと考えていた。歴史に名を残した人の陰で懸命に生きた女性に焦点を当てて描きたい」と説明。また井上さんの起用理由として、「人気・実力とも大河の主役に相応しい国民的女優」と語りました。

歴史上、あまり知られていない文を演じる井上さんは、「文さんがどんな人物なのかしつかり勉強して、運命に翻弄されながらも力強く生きた芯のある女性を演じたい」と抱負を語りました。

14年の8月から撮影が始まり、15年1月から1年間放送されます。

◆観光の起爆剤に

「花燃ゆ」の放送決定に、大河ドラマは萩観光の起爆剤となるとともに、18年の明治維新150年に向けて弾みになるものと期待が高まっています。

会見動画など詳しくは、ホームページ「NHKオンライン」をご覧ください。順次、出演者も発表されます。



新春のごあいさつ

萩ネットワーク協会会長
萩市長 野村興兒

萩ネットワーク会員の皆様には、心新たに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。

萩市東部での豪雨災害など、今までに経験したことのない集中豪雨が再び起こりうるものと想定して、防災・減災に取り組むことが急務であり、どのようにして命や財産を守るかということが我々の課題であります。

明治維新150年に向けて

本年は1864（元治元）年の禁門の変から150年。萩藩では欧米列強との下関戦争、また禁門の変により朝敵の汚名を着せられ長州征伐が始まります。明治維新までの5年間、四面楚歌の中で若き志士たちが時代の魁たらんと身を賭して活躍しました。

もう一度歴史をひもとく150年前を学ぼうではありませんか。萩を訪ねる観光客にも、時代を切り開き近代の扉を開けた幕末・維新の萩物語を語り広めることが私たちの務めとなります。2月にはこの萩物語を学んでもらう端緒ともなる「萩・幕末維新検定」を初めて実施します。

経済の振興と再生
企業誘致では、昨年7月に川上

地域でトフレ株式会社が新工場を起工し、今年6月にはいよいよ操業が開始されます。当初は滋賀工場等からの異動のほか、地元からの新規採用により90人の従業員が雇用され、今後更に工場増設により150人程度の雇用が見込まれます。

また、昨年5月には田万川地域で萩牧場が事業を開始し、現在1000頭の牛が飼育されており、26年度には1700頭規模の牛舎を目標としています。今後も新規企業の誘致を計画中であります。

辛い悲しい話題の多かった中、来年のNHK大河ドラマは、萩を舞台として吉田松陰先生の妹・文を主役とした幕末・維新の物語に決まりました。ユネスコの世界遺産登録とともに、観光事業の発展に大きく貢献するものと期待しているところです。

末尾になりましたが、本年の皆様のご多幸をお祈り申し上げます。のごあいさついたします。



萩にゃん

大河ヒロインに抜擢で脚光!

吉田松陰の妹文

明治維新はこの家族から始まった。

平成27年(2015)の大河ドラマの主人公は吉田松陰の妹文に決まった。文を演じるのは井上真央さん、タイトルは「花燃ゆ」と発表された。どんなドラマになるのか今から心待ちにしておられる方も多いと思われるが、文とはいかなる女性だったのだろうか。

彼女の経歴を『吉田松陰全集』で確認すると、杉百合之助の四女として生まれ、久坂玄瑞の妻となり、のちに楳取素彦と再婚したという程度の説明しかない。ありていにいえば、これまで文は、4人いた松陰の妹の中でもあまり目立たぬ存在だったのである。

しかしながら、文もまた、幕末から明治・大正という激動の時代を生きた一人の女性にほかならな

上、呼び名を文に統一する。

杉家の四女として誕生

文は天保14年(1843)長門国阿武郡松本村(現萩市樺東)の護国山の麓、団子岩と称される地に出生する。父は萩藩士杉百合之助、母は滝。彼女は杉文(文子)から久坂文へ、さらに楳取美和子へと氏名を変え、大正10年(1921)9月に没した。享年79。

杉家の7人兄弟姉妹のうち、文は下から数えて2番目であった。長兄は15歳上の梅太郎(民治)、次兄は13歳上の虎之助(松陰)、長姉は11歳上の千代(芳子)、次姉は4歳上の寿(寿子)、末弟は2歳下の敏三郎である。なお文のすぐ上の姉、三女の艶は早世した。

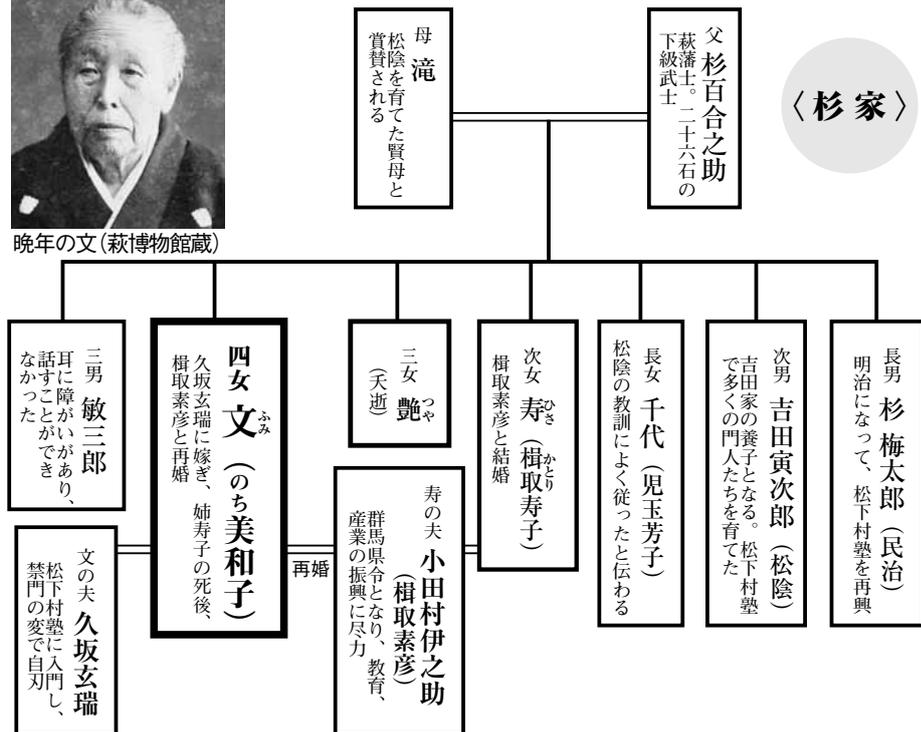
文が数えて14歳の安政3年(1856)、実家杉家に幽囚中の身であった松陰は松下村塾を主宰する。杉家はすでに、現在松陰神社のある位置へと転居していた。姉千代の談話によると、母滝は家事を済ませると「サア皆さんのお話が始まった」といい、皆を連れて真先に行ったという。蛇足だが、「大さん」は吉田大次郎すなわち松陰を指す。

あるいは、松陰は松下村塾に女子の門弟を迎えたという形跡はないものの、近所に住む少女たち、たとえば吉田稔麿の妹房などは滝

〈杉家〉



晩年の文(萩博物館蔵)



に可愛がられ、杉家の女子たちと仲睦まじく遊びながら、時には松陰から女大学や百人一首などの講義を聞くこともあったという。

このように、文は好学の家族に囲まれて育った。こうした環境のもとに置かれたわけであるから、少女文の姿が塾生たちの中に交じっていたとしても何ら不自然ではあるまい。

久坂玄瑞との結婚と死別

安政4年12月、15歳の文は18歳の久坂玄瑞と結ばれる。藩医久坂良迪の三男玄瑞は、すでに父母や兄を亡くし孤独の身だった。その玄瑞が安政3年6月、松陰との手紙での応酬を経て松下村塾の門を叩く。やがて玄瑞は松陰から「防長年少中第一流の才気ある男」と絶賛され、塾生の中心人物へと成



久坂玄瑞

寿夫妻の次男道明(久米次郎)を養子に迎え、自身は義助と改名した。だが、彼ら尊攘派の絶頂も長くは続かなかった。同年8月18日の政変で京都から追放され、元治元年(1864)7月、禁門の変に敗れ、25歳で自刃したのである。

長した。こうした玄瑞の才に惚れこんだ松陰は、塾生の中谷正亮の推薦もあり、玄瑞と文との結婚を画策する。玄瑞が文の容姿を気に入らず、しぶしぶ受け容れたことはよく知られるが、ともかくも若い夫婦は杉家に同居した。

ところが、玄瑞は安政5年2月から翌年2月まで江戸に遊学したため、新婚生活はわずか2カ月ほどにすぎない。さらに、玄瑞は萩に戻ると西洋学所の官費生として寄宿生活を始めたため、文と一緒に暮らしてはいない。安政6年10月の松陰の刑死後、玄瑞は師の遺志を受け継いで塾生を束ね、一時は塾を主宰するが、尊王攘夷運動の激化により京都や江戸を駆け巡った。このような状況では、文が玄瑞と満足な夫婦生活を送れたはずはない。ただ、玄瑞は旅先からこまめに文に手紙を送り、喜怒哀楽をストリートに伝えている。

玄瑞は文久3年(1863)5月、下関で外国船砲撃を指揮する。それからまもなくして、楳取素彦・

こうして文は22歳の若さで寡婦となる。同年九月、道明が家督を継ぐと、文は彼を支え久坂家の復興に努めた。なお文は、玄瑞の没後、毛利元徳の夫人安子に仕え、元徳の嫡子元昭の誕生後はその守役として仕えたという。詳細は不明だが、幕府に処刑された松陰の妹で、萩藩が「朝敵」と呼ばれる原因を作った玄瑞の妻でもあるという、微妙な立場にある文が藩主の身边に近づけたことは、非常に大きな意味をもつ。

明治2年(1869)11月、藩は玄瑞の遺児を認知する。玄瑞が京都で懇意にしていた女性との間に生まれた子で、秀次郎といった。文は、秀次郎を久坂家に迎えたが、明治12年に道明は久坂家を離れ、楳取家の家督を継いだ。文の胸中は察するに余りある。

楳取素彦との再婚と晩年

明治14年(1881)文の姉寿が43歳で永眠した。寿は群馬県令をつとめる楳取素彦の夫人である。明治16年5月3日、41歳になつて

いた文は、55歳の素彦のもとに嫁いだが、この結婚を強く後押ししたのは母滝であったという。

なお最近、楳取素彦顕彰会の山本栄一郎氏は、萩博物館が所蔵する楳取素彦の杉民治あての手紙を読み解き、文が素彦と再婚した頃の動向をおぼろげながら明らかにしている。それによると、文は、時期は不明だが素彦との再婚以前に美和子と名を改め、楳取家を訪ねて寿の看病をするようになり、ついに素彦の後添えになったというのである。

素彦は、藩医松島瑞蟠の次男で、儒者小田村吉平の養子となり、小田村伊之助と称した。明倫館で儒学を講じ、25歳の嘉永6年(1853)、15歳の寿と結婚する。松陰の後継者として松下村塾でも指導した。藩主毛利敬親に拔擢され、藩の外交役を担当し、慶応3年(1867)楳取素彦と改名する。明治9年(1876)初代群馬県令となり、群馬を日本屈指の養蚕県・教育県に育てあげ、「名県令」と称えられる。明治17年に県令を辞して群馬から東京へ移り、元老院議員となる。明治23年、貴族院議員に当選した。

素彦はこの頃から山口県、ことに防府との関係を深め、明治25年、三田尻に私立の幼稚園(現鞠生幼稚園)が設立される際に支援する。明治26年には防府に居を構えた。

明治30年、素彦は明治天皇第十皇女貞宮の養育主任になり、文も貞宮に仕える。かつて東京の青山離宮(現東京都港区、現在は赤坂御所に包摂)に貞宮御殿があったが、2人はそこで数名の係とともに貞宮の養育にあたった。翌年、素彦は宮中顧問官に任じられた。

しかし、貞宮は明治32年に夭逝する。素彦は葬祭の喪主をつとめ、貞宮の遺品を松崎神社(現防府天満宮)に奉納した。文らの悲しみはいかばかりであったろうか。

素彦はその後も貴族院議員を長らくつとめ、防府と東京の間をしばしば往来した。文は公務で何かと忙しい素彦を支え、大正元年(1912)防府にて84歳で逝く素彦の最期を見取ったことと思われる。

どう過ごしたかは、残念ながら、現時点では判然としない。以上、史料の少ない文の生涯を、周辺人物の動きを頼りに辿ってみる。今後、萩博物館所蔵の杉家資料の調査を進めれば、文について新しい情報が得られる可能性もある。大河ドラマはたしかに地域振興にとつて追い風になる面もあるが、私は博物館人という立場から、埋もれた人物の掘り起こしという面でなにかの貢献ができればと考えている。

【参考文献】

福本椿水『松陰余話』(山口県人会、1965年)

楳取素彦没後百年顕彰会編『男爵楳取素彦の生涯』(公益財団法人毛利報公会、2012年)

道迫真吾(萩博物館主任研究員)



明治32年貞宮御殿での楳取素彦と文(萩博物館蔵)

岡本 信人のぶとさん

(東京都在住、65歳)



明倫小学校の生徒であったこと、萩で育ったことは心のよりどころです



松陰読本

萩は私の原点 ―細工町、無田ヶ原に 約4年間

私は昭和23年に岩国市で生まれました。3歳の時父が肺結核を発症して山口市の病院に入院しました。その後手術を受けるため萩の市立病院に転院。萩で暮らしたのは、父が闘病生活を送った歳月で私が明倫小学校に通った約4年間です。大黒柱をくくしたわが家は、住まいを細工町から無田ヶ原に移し母は働きに出ました。暮らしは大変でしたが、私は自然に恵まれた新天地で嬉々として飛び回り、日が暮れるまで夢中で遊びました。楽しい日々も父の退院によって終わりました。横浜に引越すことになったんです。6年の3学期を残して転校しました。明倫小学校を卒業できなかったのは残念です。萩の豊かな自然から一転、車の騒音と排気ガスの中に置かれました。その一年半後、中学2年の時東京に引越しましたが、多感な時期でもあり周りに馴染めませんでした。

児童劇団から俳優の道へ

そんな私を心配した父が児童劇団の募集広告を目にして応募したんです。あまりにも唐突で戸惑いましたが、居場所のない私は勇気

を出して入団テストを受けました。それが将来歩む道になるとは想像もしませんでした。劇団と学校、二足のわらじの日々でも萩はいつも心の片隅にありました。

解剖学者の養老孟司たけし先生によると、男の子は小学生のある時期から昆虫や魚、植物といった自然に興味を持つ者と、飛行機や電車のような人工物に興味を持つ者に分かれ、その時に育った環境がその人の世界観になるといいます。思わず膝を打ちました。まさに私は前者の自然派で、小学生の4年間萩で育った「メイドイン萩」です。「萩は私の原点」というゆえんです。

松陰読本は私の宝物

―「花神」で金子重輔役

明倫小学校の「松陰読本」は私の宝物です。手元にあるのは、松陰先生没後百年の昭和34年に発行されたものです。その中には思い出がいっぱい詰っています。「校長先生の言葉」のページを開けば、当時の堀永秀夫校長先生の姿がほうふつとします。松下村塾のころでは松陰神社の境内で遊ぶ情景が、涙松の歌から遠足に行った時のことが懐しくよみがえります。

また表紙に描かれている金子重輔は、昭和52年のNHK大河ドラマ「花神」で演じた役だけに親し

みを覚えます。渡航計画実行のシーンはスタジオに作られたプールで収録しました。小舟に乗り黒船めざして漕ぐんですが、巨大な扇風機が巻き起こす風と波に阻まれて進まず、何度もやり直すうちに寒さと疲労で体が動かなくなる程でした。プールでさえこれ程の苦闘です。下田沖の松陰先生と重輔は推して知るべしです。命を投げ出しても国のため、人のために行動した松陰先生の無私の心ほど尊いものはないと思います。

明倫小学校の子どもたちが時代を越えて松陰先生の教えを学び、歌や詩を朗誦する姿はほほえましく、頼もしくもあります。いつまでも受け継がれてほしいと思います。

卒業は叶いませんでしたが、明倫小学校の生徒であったこと、萩で育ったことは私の心のよりどころであり、自慢です。

プロフィール

1948年(昭和23年)、岩国市生まれ。明倫小学校に小学3年から6年まで4年間通学、東海大学第二工学部建築科卒。主な出演作は、「肝っ玉かあさん」「渡る世間は鬼ばかり」「ナニコレ珍百景」など多数。



萩高校合唱部顧問

よしこ
有富美子さん

(萩高昭和47年卒 60歳)

容易ではなかった
全国大会

着任して10年後の昭和61年、NHK全国学校音楽コンクール(以下、Nコン)山口県大会で、初めて1位を獲得。その後も、県大会や中国大会で上位の成績を納めることはできましたが、全国大会への出場は容易ではありませんでした。

全国の舞台を経験させてあげたいという思いを胸に指導してきましたが、島根県勢に阻まれ今一步叶わず、平成6年からは、奈古高校へ赴任しました。奈古高校では生徒たちの呼びかけによって始まった合唱部を指導し、4年目には全日本合唱コンクール(以下、JCA)山口県大会金賞、中国大会銀賞の成績を納めることができました。

そして、平成11年、再び萩高校に赴任。平成18年には、山口県勢では宇部高校以来30年ぶりに、Nコン全国大会に初出場することができました。実は、私が奈古高校に赴任している間、萩高校は、JCA全国大会に一度出場していましたが、私にとつては、初の全国大会出場でした。その後は、平成22年から現在に至るまで、合唱の2大会であるNコンとJCAの全国大会いずれかに4年連続で出

場を果たしています。

強さの秘密は緻密な練習

萩高合唱部は、ほとんどの部員が高校入学後に合唱を始める生徒たちばかりです。また、進学校でもありませんので、長くても2時間ほどの限られた時間の中で練習を行っていきます。日頃からいかに能率的で効果的、かつ自主的な練習をすることができると、試行錯誤の連続でした。

今は正確な音程で歌うためにチューナーを使って音程を確認することや、唇の動かし方や息の流し方など、特に力をいれて指導しています。また、言葉からイメージが膨らむよう工夫し、歌詞についても、どういう意味で、どういう歌い方をすれば良いのか、詞をしっかりと読ませて討論させることもあります。こういった日頃の緻密な練習の繰り返し、現在の萩高合唱部への評価につながっているのだと思います。

合唱部の伝統をバトンタッチ

38年間の教員生活は、本当に楽しかったです。山陰の小さな町・萩から全国の舞台を経験させてあげたいという夢も実現することができました。定年後は、しばらくはゆつくりしたいとは思っていませんが、合唱には今後も関わり続けたいと思います。

定年を人生の一区切りとして、38年前、私を音楽の道に導いてくださった埜先生から萩高合唱部を引き継いだように、若い人にバトンタッチしたいと思います。これまで多くの部員たちにより築き上げられた合唱部の伝統は、きっと今後もしっかりと引き継いでいくことができることと期待しています。

教員生活最後の全国大会

そうして迎えた教員生活最後の年。生徒たちも意識していたように、7月の定期演奏会の際には、私を泣かせようとサプライズで、小田和正(オフコース)の「言葉にできない」を歌ってくれました。また、全国の舞台と一緒に立ちたいと強い思いで臨んだ中国大会の

合唱部に所属しましたが、本格的に声楽の道を志すようになったのは、1年生の冬、顧問の埜先生に誘われ参加した、武蔵野音楽大学の講習会がきっかけでした。全国各地の高校から集まった同年代の生徒たちが、オペラのアリアなどを歌う姿にカルチャーショックを受け、声楽の奥深さに惹かれていききました。

それから、埜先生にご指導いただき、武蔵野音楽大学声楽科に進学。卒業後には、オペラの本場・イタリアへ留学するチャンスもあつたのですが、両親の強い勧めから音楽教諭となり、偶然にも恩師の埜先生のご退職に伴い、母校・萩高校に着任し、合唱指導の毎日が始まりました。

カルチャーショックから声楽の道へ

歌うことが好きで、中学校では合唱部に所属し、中学2年と3年生の時、山口県学生音楽コンクール独唱の部で1位を受賞したこともあり、萩高校入学後も合

道の駅萩往還 駅長 篠原 充 さん

(50歳)

萩の玄関口とも言える旧萩有料道路沿いにある道の駅「萩往還」がリニューアルオープンし、2013年10月で3周年を迎えました。週末には多くの観光客で賑わう道の駅「萩往還」の駅長・篠原充さんにお話を伺いました。



道の駅萩往還



転職を機に、萩へ

宇部市出身で、大学卒業後は、広島市のアパレル会社へと就職し、仕入れから企画、営業などすべてを担い、マーケティングや販売に関しての経験が積み重なりました。ですが、魚と釣りが好きなことから、35歳の時に14年間勤めた会社を退職し、当時萩市にオープンしたばかりの道の駅「萩しーまーと」へ転職。その後、7年間勤務しました。

道の駅を退職した年の暮れに、萩有料道路の無料化に伴い、新しくリニューアルする道の駅「萩往還」の駅長就任のお話を頂き、平成22年1月に着任後、新たな道の駅の開設に携わることになりました。

コンセプトは究極のローカルブランド

萩市内は、7つの道の駅がひしめき合う地域。そんな中でも、個性ある道の駅とするには、核となるコンセプトが必要でした。萩は、

歴史観光資源が多い町であると同時に、江戸時代や明治時代に創業した100年の歴史を超える老舗も多くあります。その「のれん」には重みがあり、多くの方に愛されてきた「信用」ある特産加工品は「究極のローカルブランド」だと思います。また、萩市は広域合併したことにより、素晴らしい農産物や畜産物も豊富にあります。そういった「高品質の山の幸」や「萩の最上級品」をお客様に提供するというということ、道の駅「萩往還」のコンセプトとしたのです。

その最上級品の一つとして、どうしても誘致しなかったのが、ミドリヤファームさんの「見島牛」が食べられるレストランでした。全国でもミドリヤさんでしか扱っていない見島牛は、まさに萩の最高の畜産物。それをカレーライスやハンバーグといった国民食として食べられるレストランを作りたいかったです。ミドリヤさんも真摯に検討を重ねてくださった結果、実は一度お断りされたのですが、どうしても諦めきれず再度お願いし、希少な見島牛のハンバーグが食べられるレストランが実現することとなりました。萩の玄関口に位置する立地環境だからこそ、価格や鮮度、品質において自信のあるものをお客様にお届けする。それが、道の駅「萩往還」のこだわりなのです。

お陰様で、予定を上回る推移で売り上げも伸び、13年10月には3周年を迎えることができました。これまでの3年間は、商品構成を磨きあげ充実させることやスタッフの接客技術の向上など、道の駅自体の基盤を固め、レベルアップすることに力を尽くしてきました。ですが、4年目からは第2局面へと進み、カタログやネット通販といった建物のない、バーチャルな世界の中に存在する、もう一つの道の駅「萩往還」を創り上げていこうと思っています。昨年の冬商戦では、萩の究極のローカルブランドを販売するギフトカタログを作成しました。萩には、多くの歴史ある老舗があり、萩の風土を熟知した生産者がいます。そんな匠たちが生み出した最高級品を「萩のプライド」と称して、その背景と合わせてご紹介したので、そんな優れた産物を通して、今後は、カタログやインターネットを通して、萩の魅力を全国の皆様にお届けしていきたいと思っています。

例えは、ある農家の方が精魂込めて育てたイチゴの中でも、色、形、糖度において最高品質のものが稀にあるという話から、そのレベルのものだけを選別し、「鬼ほっぺ」という商品名を付けてブランドディングし、好評を得ました。この他にも、旧松本村に現存する樹齢150年を超える「松陰柿」や、佐々並の山間で化学肥料も使わず、湧水だけで作られた「黒ヶ谷米」など、萩の土地や気候を熟知した生産者にしか作り出すことができないような、隠れた最上級品を発掘することができました。決して数は多くないですが、極めて質の高い生産物を磨き上げて商品化すること。そして、ただ販売するだけでなく、その背景にある文化や物語までお伝えしていきたいと思っています。

「冬ギフトカタログ」を郵送します。(10ページ)

道の駅「萩往還」
 萩市椿鹿背ヶ坂1258
 ☎0838・22・9889



「冬のギフトカタログ」を郵送します。(10ページ)



みやうち内科・消化器科クリニック

よしあき
宮内 嘉明さん
(萩高昭和 57 年卒 49 歳)

がデジタル化された現在では、患者様の苦痛の軽減と的確な病気の診断を、診療上の私のテーマとしています。

Uターンし、 萩市民病院へ

大学院終了後は、香川・愛媛を中心に大病院や労災病院などに勤務し、経験を積んできました。しかし、故郷にいた母親が病気になったこともあり、41歳の時、萩に戻り、萩市民病院に勤務することになりました。

友人はもちろん、そのご両親や恩師が年を重ね、知り合いが診察に訪れる機会も多く、地元で医療に携わることの大切さや責任を感じ始めたのもこの頃です。とにかく地元の方たちに良い医療を提供したいという一心で診療に専念してきました。

新規開業し地域医療へ貢献

当初、萩へ戻ってきたときは、独立し、開業するということは全く考えておらず、ずっと萩市民病院に勤務するつもりでした。しかし、2年ほど前から、「休日急患診療センター」開設の動きに合わせて、私自身も地域医療について関心を持つようになりました。

萩市には、24時間、どこかの病院が開いていて医療を受けられるという、全国でも稀な体制があります。ですが、開業医も高齢化が進んでおり、それによる閉院も数件ありました。また、萩市内で新規開業する内科系医院もこの20年ほどなく、地方の医師が減少する医療過疎の問題も合わせて考えると、今後、こういった萩市の救急医療体制を維持することが難しくなるのではないかと、そんな思いが生まれるようになったのです。

地域に定着する医師が一人でも増えるというところで、微力ながらも地域医療への貢献ができるのではないかと思ひ、8年半務めた萩市民病院を退職し、50歳を目前にして開業することを決意しました。

きめ細かな診療で安心感のある個人クリニック

10月の開業後、まだ日も浅いため、地域の方々が必要としていることなど、まだ見えていないものも多々あります。手探りの状態ではありますが、私を頼りに訪れてくださる患者様がいらつしやることには、病院勤務をしていた頃とは違う喜びがあり、やりがいを感じます。診察で患者様と接する中で、その方を取り巻く環境など、病気以外のケアにも携わることができ、患者様と向き合う時間も増えました。

こういった個人クリニックだからこそ小回りの利くきめ細かな診療にも充実感を覚えます。もちろん、これまで消化器内科の専門医として培ってきた経験を活かし、適切な医療を地域の皆様へ提供していきたいと思っています。「ここで診てもらって本当に良かった」と思っていたいただけるような、そんな安心感のあるクリニックを目指していきます。

■みやうち内科・消化器科クリニック
萩市椿2788・1(金谷神社近く)
☎0838・25・2500

2013年10月に、萩市椿に「みやうち内科・消化器科クリニック」が開院しました。萩市では、約20年ぶりの内科系医院の新規開業。また、医療過疎、医師不足が問題となつている昨今、地域住民の不安を軽減してくれるのではないかと期待される院長・宮内嘉明さんにお話を伺いました。

カメラ好きから消化器内科の専門医に

萩高校を卒業後、一度は広島大学生物生産学部に進学し、1年半ほど通いましたが退学。翌年の春、香川大学医学部に進学しました。その後、大学院を修了し、消化器内科の医師となりました。数ある

専門分野の中でも、消化器内科の専門医となったのは、実は、趣味の写真撮影に二因があるかも知れません。高校時代には、科学部写真班に所属し、寝ても覚めても写真のことはばかり考えるほど、写真撮影にのめり込んでいました。

そんな私ですから、医師になった時には、すぐ胃カメラに興味が湧きました。現在ではデジタル化されていますが、当時はフィルム時代の時代。診断に必要なキレイな写真撮ることは、かなりの技術が必要でした。的確な視野で胃の部位を鮮明に撮影し、診断に役立てることを目指していたら、いつの間にか内視鏡を使った検査や治療に夢中になっていました。内視鏡



400年前の明木の恩人

ひころく またじゅうろう
彦六・又十郎



平成25年10月に建立した石碑「菅蓋の又十郎誕生地」と岡村善武会長



道の駅「萩往還」 ウィンター・プレミアム ギフトを発売!!

萩の究極ローカルブランドを販売するカタログギフトができました。萩の匠たちが生み出した最高級品を「萩のプライド」として、道の駅のオリジナル商品加盟店の厳選商品など23アイテムを紹介。ほとんどが今回のギフトでしか手に入らない厳選商品です。



- ①道の駅萩往還「プレミアム・ジャムセット」(2,625円、3,800円)、②みどりや「見蘭牛ソーセージセット」(5,500円)、③見蘭牛ダイニング「玄」オリジナルセット(5,000円)、④大つちの地魚「瀬つきあじセット」(2,500円)、「干物セット」(5,250円)、⑤道の駅萩往還オリジナル「ポン酢セット」(2,400円)、⑥忠小兵衛蒲鉾本店「炭火焼抜き蒲鉾」(4,500円)、⑦岡崎酒造・無農薬純米大吟醸酒「無口」(4,300円)など、いずれも数量限定。

■販売期間 3月31日まで

※電話をいただければカタログを無料送付します。

(問) 道の駅「萩往還」(0838・22・9889)

☆マーマレード(2種)を各5名様にプレゼント

明木地区で400年もの間、語り継がれてきた古泉城(現在の古戦場)の彦六、菅蓋の又十郎という2人の恩人がいます。

明木地区では、彦六・又十郎伝保存会(約25人、岡村善武会長)を立ち上げ、2人の功績の伝承に取り組んでいます。

◆彦六・又十郎とは

400年前、萩城が築城される際、明木の里に石工の技に秀でた怪力の青年、彦六と又十郎がいました。殿様の命により、城の石垣を組み役目に召し出された2人は大活躍し、功績により褒美を賜りますが、2人は自分たちの利益は顧みず、当時、萩城下に売り出す薪、炭、野菜などすべての物資に対して徴収されていた「口屋銭」という税金の、明木の里人全員の免除を申し出ます。殿様はこの心

がけに感動し、口屋銭の特免を認め、明木の里人は長らくその恩恵を受けました。

2人の没後、西来寺の山門の前に石碑を建て、毎年4月13日に追善の法会を営んで感謝の気持ちを捧げ、この遺志を称えています。

◆後世への伝承に取り組み

彦六・又十郎伝保存会では、2人のイラストを描いたのぼり旗や、功績を伝える紙芝居を作成しイベントなどで披露するなど伝承に取り組んでいます。

11月30日、「彦六・又十郎四百年祭」を終えた岡村会長は「盛況に終わり、広く2人の思いを伝えられ、継承への成果となりました。子どもたちには、劇や剣舞を通じて、大きくなってもふるさとへの思いを胸に抱いてもらいたいです」と語りました。



阿武町

手作りの あったかイルミネーション
イルミネーション
フェスティバル2013 in阿武町

今年で10回目を迎える「イルミネーションフェスティバル in阿武町」が道の駅「阿武町」で開催されています。地域住民・企業・団体などによる手作りのイルミネーション10作品の点灯が1月3日まで行われ、手作りの優しい輝きが阿武町を華やかに彩っています。

12月14日に道の駅阿武町で行われた点灯式では、会場が「すごい!きれいな!」との歓声に包まれました。

今年で10回目を迎える「イルミネーションフェスティバル in阿武町」が道の駅「阿武町」で開催されています。地域住民・企業・団体などによる手作りのイルミネーション10作品の点灯が1月3日まで行われ、手作りの優しい輝きが阿武町を華やかに彩っています。

12月14日に道の駅阿武町で行われた点灯式では、会場が「すごい!きれいな!」との歓声に包まれました。

豪雨災害義援金報告

「あたたかいご支援ありがとうございました。」

7月28日豪雨災害の支援として物資や義援金をいただきました。義援金等の総額は、12月5日現在、885万8765円となり、2回に分けて被災者に見舞金の配付を行いました。

義援金の募集は3月31日まで行っています。▽山口銀行阿武支店 5006061 阿武町

災害義援金町長 中村秀明

(問) 阿武町役場民生課 (083888・23115)

11月16日

日立金属 高輪和彊館(東京都港区)

第21回東京須佐弥富会

発足して今年で21年、50人が出席。元会長の清地治正さんのご尽力で、平成10年から須佐出身の久原房之助ゆかりの日立金属・高輪和彊館で開催しています。7月の豪雨災害について須佐公民館の吉田満さんから、写真を使って現場からの被災報告がありました。その後、今年生誕160年にあたる「手塚猛昌-日本最初の時刻表を作った須佐の人」の講演がありました。会からは地元にも多額の義援金が寄せられました。



東京須佐弥富会



黒のパンツが萩商工

萩商工ラグビー部 県予選決勝で惜敗

11月23日、長門市で全国高校ラグビーフットボール大会山口県予選の決勝戦が行われ、萩商工高校ラグビー部は、大津緑洋高校と対戦、惜しくも19対25で破れ、12年連続での花園への切符を逃しました。萩商工は先制を許すも、後半8分には逆転、試合は両者譲らぬ攻防によって白熱した展開となりました。

優勝した大津緑洋は、前身の大津高から12年振り29回目の全国大会の出場となります。大津緑洋の中野伸彦主将は「自分たちが成長できたのは萩商工の選手のおかげ」と話しました。

全国大会1回戦は、12月28日(土)に遠軽高校(北海道代表)と対戦。

25年4月に統合、28年に新校舎 旭地域の中学校の校名を募集します

旭地域の明木中学校と佐々並中学校は平成25年4月に統合し、新しくスタートしました。萩市教育委員会では、両校の歴史や伝統を生かし、これからも愛される旭地域にふさわしい校名を募集します。新校舎が完成する平成28年度に新校名を採用予定です。

■応募資格 萩市在住または萩市出身者

■募集期間 1月6日(31日(必着))

■応募方法 萩市ホームページからダウンロードできる応募用紙に、校名案、理由、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を記入し、封書、ハガキ、FAX、電子メール



明木中学校

※1人1点までとします。
※電子メールの場合は表題を「学校名応募」としてください。
■応募先・問い合わせ
〒758-8555 萩市教育委員会総務課(0838-253141、FAX0838-263561)

萩高同窓会報

60回記念号を発行!

昭和29年の創刊から毎年発行されている萩高同窓会報は、今回が第60号の記念号になります。県下で、同窓会報を継続して発行している学校はほかにないとのこと。

12年7月に発足した「萩高同窓会報編集委員会」による初めての発行です。

■内容

- ・萩中、萩高女、萩高の校舎と当時の校長先生の写真
- ・多田美千代さん(萩南高昭25年卒)、阿座上竹四さん(昭27年卒)、陽信孝さん(昭32年卒)、玉井知正さん(昭34年卒)、池本和人さん(昭35年卒)、松井武久さん(昭37年卒)

大中忠夫さん(昭45年卒)など44人の寄稿
また、今号からサイズも字も大きくなり、読みやすくなりました。

■価格

1000円、別に送料200円

■入手方法

編集委員会事務局
(有)マシヤマ印刷 増山嘉代子
(0838-221103)





会員投稿 9月29、30日 湯の宿「木もれび」(滋賀県大津市)

萩商41会(萩商業高昭和41年卒)in大阪

萩商41会は節目ごとに同期会を開催しています。今回は65歳の節目を過ぎ人生をエンジョイしはじめる年齢となり、フレッシュな気持ちでスタートする会(Fresh Start同窓会)を、大津市の温泉旅館、湯の宿「木もれび」を貸切利用で開催しました。恩師お二人を含め46人(男30人・女16人)の参加を得て、一次会

二次会と時間を忘れて語り合い、大いに盛り上がりました。

2日目は修学旅行を思い出しながら、貸切バスでビール工場見学や太秦映画村の散策を行い、京都情緒の一部に触れる楽しい企画も好評のうちに幕を閉じ、再会を約して京都駅で解散しました。

なお、わずかではありますが会費余剰金を、7月28日豪雨災害義援金に寄付いたしました。

大阪幹事 宮内正二(大阪府泉南市)

会員投稿

11月12～14日

萩商工商業科昭和33年卒「燦々会」

さんさん
グランドエクスツブ鳴門(徳島県鳴門市)

毎年恒例の「燦々会」を10月22日～24日、四国は鳴門で開く予定でしたが、台風26号の影響で延期となり、11月12日～14日に参加者も25人と近年にない少人数での開催となりました。

初日の会食懇談では、55年前の高校時代を懐かしみ、膝・腰・肩が痛い、血圧・コレステロール・血糖値が高い、良くなったのは物忘れなど現況を語り合い、2次会では本人だけが満足の境地でカラオケに興じました。

2日目は、うず潮見学、四国一番札所の霊山寺参拝、阿波踊り会館での実演見学、ステージでの踊り体験参加等、年齢のわりに盛りだくさんを楽しみました。来年は萩・長門で開催と決まり、郷里で再会する事を楽しみに帰途につきました。

堀 明人(兵庫県伊丹市)



△引受期幹事メンバー

11月30日に東京指月会役員、事務局ほか関係者の皆様のご厚意により引受期の慰労会を開催していただきました。

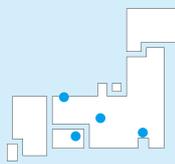
会員投稿 11月30日 ホテルサンルート品川 シーサイド

萩高35期(昭和58年卒) 東京指月会引受期

今年の東京指月会は第46回を迎え、10月26日に盛大に開催する予定でしたが、大型台風の接近により、指月会始まって以来、初めての中止となりました。開催に向けこの1年間準備をしてきました我々、萩高35期は“記憶に残る”引受期となりました。

今年の目玉企画は、例年のアトラクションとは趣向を変え、萩にゆかりのあるクイズを準備し、会場参加者を4中隊に分け対抗で優勝を競うゲームの予定でしたが、また来年チャンスがあれば企画したいと思います。なお、次の引受期である36期(昭和59年卒)の皆さんが容易に集まらず、現在も募っております。ぜひ東京指月会事務局までご連絡いただければ幸いです。

引受期代表 末益龍夫(東京都)



「クラス会をいつ、どこで開催します」という情報をお寄せください。萩の資料送ります。投稿記事も歓迎します。
hagi-network@city.hagi.lg.jp

情報
ください
!



会員投稿



10月12日 萩本陣(萩市椿東)

萩高20期(昭和43年卒)同期会

我々萩高20期は、最多の527人、還暦記念として行った同期会、そして3年後にという希望通り今年の開催となりました。前回140人余から今回84人と減りましたが、団結力も強く、何をやるにしても、すぐにたくさん集まるのが、この20期生です。一声かければ、全国津々浦々から集まってくれ、まずは地元の

20期の団結力にも拍手です。

出しものも、フレンズ合唱2曲、銭太鼓あり、男性群の「めだかの兄弟」ショー、また全員でシニア向けリラックス体操「長生きサンバ」で大盛り上がりでした。楽しい中、校歌や「今日はさようなら」の大合唱で締めくくりました。さあ!それからは、長い2次会～5次会へと延々と続いた会となりました。また会える3年後を楽しみに…。

代表幹事 横山秀二(萩市川上)



会員投稿



10月28日 萩観光ホテル(萩市越ヶ浜)

萩高13期(昭和36年卒)同期会

私たち萩高13期は、中村英昭さん(別名・足の短い石坂浩二??)を中心に世話好きの人たちで計画を練って、もう一人の94歳の同期生を囲んで、毎年同期会を開催しています。もう30回位にはなると思います。

もう一人の同級生!それは今年94歳になられた村田美子先生ですヨ!同期会では、出席者と共に10年間の皆勤賞授与式も行

いました。ワイワイガヤガヤ…喜寿がそこまでやってきているのに、心は萩高時代の青春まっただなか!!京都、東京、神戸、広島と開催地には、元気はつらつと出席してくださる村田先生と共に(村田先生がおっしゃるには、同じ長門に住んでいる松木英之さんがつれて行って下さるから出席できるのだと…)。来年も再来年もそしてその次も、13期同期会が続くことを願いながら…。

本来ならば、同期の友と一緒に笑っているのに、一足先に逝ってしまった仲間のご冥福をお祈りいたします。

手塚(旧姓 角川) 東美枝(萩市大井)



会員投稿



11月21日 萩パール(萩市中小畑)

萩高8期(昭和31年卒)同期会

今年喜寿を迎えることで萩市内を中心に29人が出席しました。今回からは懇親会は昼間でノンアルコール、ウーロン茶で実施されましたが好評でした。

これから介護を受けなくて元気に生活する秘訣ということで、100歳の元気な母親の生活を服部和夫君が紹介、中谷伸君から高齢者の交通事故の説明があり、反射材のタスキが全員に配布され、交通事故にあわないように呼びかけがありました。懇親会の間合いにビンゴゲームが行われ、歓声上がる楽しい同期会でした。

幹事 中谷伸、河村征子、石川久満代(萩市在住)

情報アラカルト

関東地区

■現代の名碗

三輪壽雪、岡田裕、兼田昌尚の作品が展示されています。

1月5日(日)まで

東京都港区虎ノ門4・1・35西久保ビル 菊池寛実記念智美術館

(03・5733・5131)

○地下鉄 日比谷線「神谷町駅」、南北線「六本木一丁目駅」、銀座線・南北線「溜池山王駅」から徒歩6〜8分

■日本伝統工芸展60回記念「工芸からKOGEEへ」

岡田泰の作品が展示されます。

2月23日(日)まで

東京都千代田区北の丸公園1・1 東京国立近代美術館 工芸館

(03・5777・8600)

■岡田裕・泰 父子展

1月8日(水)〜14日(火)

東京都中央区 日本橋三越本店 6階美術特選画廊

(03・3241・3311)

■椿山荘「椿フェア」

萩の食材を使用したビュッフェランチが提供されます。

1月25日(日)〜2月28日(金)

東京都文京区関口2・10・8 ホテル椿山荘東京

(03・3943・1111)

■日本陶磁協会賞制定60周年記念第55回日本陶磁協会賞受賞作家展

三輪和彦の作品が展示されます。

2月1日(土)〜11日(火・祝)

東京都中央区銀座4・5・11 和光 6階和光ホール

(03・3562・2111)

■伝統的工芸品展WAZA 2014

萩焼をはじめとする日本の伝統工芸品が一堂に会し、展示・販売

2月13日(木)〜18日(火)

東京都豊島区西池袋1・1・25 東武百貨店池袋店

(03・3981・2211)

■兼田昌尚展

2月20日(木)〜27日(木)

東京都大田区田園調布2・44・8 ギャラリー輝山

(03・3722・3510)

■山口フェア

忠小兵衛のかまぼこ等を販売予定です。

2月26日(水)〜3月4日(火)

埼玉県さいたま市浦和区高砂1・15・1 伊勢丹浦和店

(048・834・1111)

■野坂和左作陶展

3月21日(金・祝)〜31日(月)

東京都文京区本郷5・28・1 ギャラリー愚伶

(03・5800・0806)

■ふるさとの食、につぼんの食 全国フェスティバル

岸田商会の地ビールやポン酢等、忠小兵衛のかまぼこ等を販売予定。萩大志館もスタッフとして参加予定。

3月8日(土)、9日(日) 午前10時〜午後4時

東京都渋谷区神南2・2・1 N H K放送センター前、代々木公園

おいでませ山口館のイベント

○新酒フェア

3月上旬

東京都中央区日本橋2・3・4日 本橋プラザビル1階 おいでませ山口館(03・3231・1863)

中部地区

■企画展「没後50年 松林桂月」

水墨を極め、画中に詠う

松林桂月は、萩に生まれ、東京に出て渡辺華山の孫弟子にあたる野口幽谷に師事。山口県立美術館の30年ぶりの回顧展が巡回。

1月13日(月・祝)まで

愛知県田原市田原町巴江11・1 田原市博物館

(0531・222・1720)



■水津和之作陶展

2月12日(水)〜18日(火)

名古屋市中区栄3・5・1 名古屋栄三越 7階美術画廊

(052・252・1111)

■濱中史朗展「さる山@金沢」

2月15日(土)〜3月2日(日)

石川県金沢市広坂1・2・20 モノトヒト

(076・255・0086)

■岡田裕 作陶展

3月28日(金)〜4月3日(木)

長野県長野市南千歳1・1・1 ながの東急百貨店

(026・226・8181)

関西地区

■日比みのる水彩画展

萩市出身(萩高卒)の水彩画家。

富士山の世界遺産記念シリーズ。1月25日(土)〜30日(木) 午前11時〜午後5時

大阪府伊丹市伊丹5・11アリオ 2・1F ギャラリーアートホール蔵(072・783・4966)

中国地区

■内村幹雄 作陶展

1月15日(水)〜21日(火)

岡山県岡山市北区表町2・1・1 天満屋岡山店 5階美術画廊前 アートスペース

(086・231・7111)

■萩焼作家5人展

兼田知明、松野創平、厚東孝明、吉野桃李(美祢市)、大和佳太(山

第60回日本伝統工芸展

陶芸家 岡田裕、岡田泰、渋谷英一、玉村登陽、野坂和左、松尾優子の作品が入選しました。

◆高松展 平成26年1月2日(木)〜19日(日)香川県立ミュージアム

◆仙台展 1月23日(木)〜28日(火) 仙台三越

◆福岡展 2月11日(火)〜16日(日) 福岡三越

◆松山展 2月18日(火)〜24日(月) 松山三越

◆広島展 2月26日(水)〜3月16日(日) 広島県立美術館

口市)の作品が展示されます。

1月22日(水)〜29日(水)

島根県松江市朝日町6661

一畑百貨店 5階美術サロン (0852・55・2500)

■金子司展

2月27日(木)〜3月5日(水)

広島市中区胡町6・26 福屋八丁掘店 7階ギャラリー一〇一(082・246・6111)

■三輪和彦展

3月11日(火)〜17日(月)

広島市中区基町6・27 そごう広島店

(082・225・2111)

■襲名記念 十三世 坂高麗左衛門展

3月13日(木)～19日(水)
島根県松江市朝日町661
一畑百貨店5階美術サロン
(0852・55・2500)

山口県関係

新規(再)加入会員

宮内正二さん (大阪府泉南市)
藤本勉さん (埼玉県川越市)
金子浩さん (埼玉県さいたま市)
山根義高さん (神奈川県横浜市)
上條朋子さん (山梨県大月市)
藤井誠一さん (東京都多摩市)
松野寿啓さん (神奈川県横浜市)
田中達也さん (下関市)
藤村昌史さん (下関市)
西坂浩子さん (千葉県松戸市)
森邦雄さん (神奈川県横浜市)
遠藤千佐代さん (東京都品川区)
松原薫さん (千葉県印西市)
伊藤賢次さん (千葉県柏市)
雪野勝也さん (下関市)
高嶋宏子さん (東京都大田区)
藤田ゆみさん (東京都板橋区)
高津行正さん (宇部市)
梅田政子さん (東京都日野市)
福井賢さん (神奈川県横浜市)
河野功さん (三重県名張市)
長末詩子さん (田布施町)
坂本和生さん (神奈川県横浜市)
古屋寿行さん (山口市)
原田洋子さん (兵庫県神戸市)
児玉勝利さん (秋市)

(10月25日～12月24日) 26人

■下瀬信雄撮影写真の常設展示
山口日産ショールームの2階に
ギャラリーが新設され、海をテーマにした写真等が展示されています。

山口市大内御堀1220・1
山口日産山口大内店
(083・923・2300)

萩市関係

■映画「東京シャッターガール」
ともに萩市出身で「萩ふるさと大使」の漫画家・桐木憲一さん(萩高平成6年卒) 原作で、音楽家・山本和智さん(萩商業平成6年卒)が音楽を担当した映画を上映します。

1月4日(土)～13日(月・祝)
▽上映時間 1月4日午後6時30分、5日午後5時、6日午後9時、7日午後7時、10日午後11時、13日午後5時
▽前売1500円(当日1800円)
▽萩ツインシネマ(東田町)
(0838・26・6705)

■藤崎恒頼新作油彩展
平成26年1月16日(木)～21日(火)
萩市江向440・1
萩郵便局コミュニティルーム

映画情報

■スタジオブリ映画「かぐや姫の物語」

萩市出身の俳優、松本美さん(萩高校平成4年卒)が、漢部内麻呂役として出演。
全国ロードショー中

出版情報

■吉田松陰著作選 留魂録・幽囚録・回顧録 奈良本辰也著・訳
至誠と行動に生き、維新を実現する人材を育て上げた変革者の思想。
価格 1300円

発行 講談社学術文庫
■井上勝一職掌は唯クロカネの道作に候ー 老川慶喜著
鉄道の父・井上勝の鉄道にかけた生涯を探り、日本の近代化に寄与した鉄道の役割を明らかにする初の本格的な評伝(372ページ)。
価格 3500円

発行 ミネルヴァ書房
■萩藩主要役職者年表 河村一郎著
藩府要職の歴任者および諸郡代官所勤者の在職期間年表。人名から素早く役職を検索、萩藩政研究者には必携(A4版、235ページ)。著者は元萩図書館長。
価格 3000円

発行・販売所 萩図書館
(問) NPO萩みんなの図書館
(0838・22・4646)

プレゼント

①道の駅「萩往還」提供「オリジ

ナルマーマレード」ビター・スウィートを各5名様。
②道の駅「萩しーまーと」提供「オイル・ルージュ、オイル・ポニーフィッシュ」の2本セットを2名様。
③写真家・下瀬信雄さん撮影「2014年卓上カレンダー」を10名様。

萩博物館

○生誕200年記念「山浦清磨」萩に招かれた幕末の刀匠」
2月9日(日)まで
幕末期に抜きん出た才能を持ち、その才能を見事に開花させた刀工、山浦清磨(1813～55)の生誕200年を記念した特別展です。静岡県、長野県、萩市、東京都と巡回し、西日本では、萩博物館のみの開催となります。



○ふるさとの島・ふるさとの山河
2月22日(土)～4月6日(日)
▽観覧料 大人500円、高校・大学生300円、小・中学生100円
▽年中無休 年末年始も開館しています。
(問) (0838・25・6447)

山口県立萩美術館・浦上記念館

○現在形の陶芸 萩大賞展Ⅲ
1月2日(木)～2月2日(日)
◎萩大賞「繕器」佐藤典克(神奈川県)
奈川県
萩市等の入賞者 ▽審査員特別賞 止原理美(土原、古川巻(江向)▽佳作 藤井謙次(椿東、小川浩延(長門市)
▽観覧料 一般500円、70歳以上



萩大賞「繕器」

上・学生450円
▽休館日 月曜日(1月13日は開館、12月27日～1月1日)
○普通展示(収蔵品展示)
・浮世絵 浮世絵に描かれた動物たち(1月26日)、明治の役者絵(2月1日～3月9日)
・東洋陶磁 粉青沙器(1月26日)、緑釉陶器の歴史(2月1日～5月18日)
・陶芸(龍神伝説)の世界(4月13日)、オブジェー陶造形の潜在力Ⅱ(6月22日)
(問) (0838・24・2400)



(河添の桜)

イベントカレンダー

萩市観光協会 ☎0838・25・1750

1月10日(金)～3月31日(月)

◇萩まちじゅう味めぐり・
萩温泉郷湯めぐりキャンペーン

市内各所

2月3日(月)～4月3日(木)

◇萩城下の古き雛たち 旧久保田家住宅ほか

2月15日(土)～3月30日(日)

◇萩・椿まつり 笠山椿群生林

3月2日(日) 10:00～ 山口県漁協萩地方卸売市場

◇萩・しろ魚まつり 道の駅「萩しーまーと」

3月9日(日) 10:00～ 山口県漁協萩地方卸売市場

◇萩の真ふぐ祭り 道の駅「萩しーまーと」

3月22日(日) 9:00～

◇萩往還ワンデーウォーク 2014

2013 着物フォトコンテスト

グランプリ「着物がいいね！城下町」

中島昭雄(益田市)

菊屋横丁

萩の町並みをよく生かし、モデルの
カップルの楽しそうな表情が印象的。



■パスポート配付場所 萩市観光協会、萩市役所観光課、萩温泉旅館協同組合、道の駅など
☆希望者にはネットワーク事務局から郵送します。



冬の萩の味覚と温泉を楽しむ

萩まちじゅう味めぐり・ 萩温泉郷湯めぐり キャンペーン!

1月10日(金)～3月31日(月)

冬でしか味わえない萩のお勧めグルメ・温泉・イベント情報を一冊に集約し、お得なクーポンがついた「2014年冬のぶらり萩あるきパスポート」を発行。

冬の萩を味わう「萩まちじゅう味めぐり」では、萩の味覚を堪能できるお店30店舗を紹介。冬の萩で温まる「萩温泉郷湯めぐりキャンペーン」では、冬の観光にうれしい萩温泉郷日帰り入浴施設8施設を紹介。クーポンで割引などお得な特典があります。



萩・椿まつり

笠山虎ヶ崎の約10haの敷地に自生する、約2万5000本のヤブ椿が可憐な花を咲かせ、色鮮やかに咲き乱れ、見る者を魅了します。

2/15～3/30



萩城下の古き雛たち

萩の家庭で受け継がれてきた、江戸時代から現代までのひな飾りを、旧久保田家住宅をメイン会場に11カ所の施設などに展示します。

2/3～4/3



萩往還ワンデーウォーク 2014

吉田松陰や高杉晋作など維新の志士たちが駆け抜けた歴史の道「萩往還」を歩くウォーキングイベント。佐々並コース(20.3km)と明木コース(10.8km)の2コース。

3/22



萩の真ふぐ祭り

萩沖産の天然真ふぐが主役のグルメイベント。「味ではトラフグにも勝る」との声もある真ふぐの刺身無料試食や刺身・ミガキの特売、フグ鍋の販売など。

3/9

■申込方法 郵便振替用紙付の申込書に参加料1000円(高校生以下・75歳以上は無料)を添えて郵便局で申し込み(手数料120円は自己負担)。申込書は萩市スポーツ振興課から送付します。
(問) 萩市スポーツ振興課 (0838・25・7311)